

Vol.23 No.1 '00

2000年11月30日 発行 目次

| | |
|--|----|
| 第31回日本消化吸収学会総会を終えて | 4 |
| 健康保険山形健康管理センター 高橋恒男 〈招待講演〉 | |
| Hepatic and Gastrointestinal Disorders of Membrane Transport | 5 |
| (V A Medical Center & University of Michigan School of Medicine) Richard H. Moseley 〈シンポジウム〉 | |
| 栄養素輸送をめぐる新しい視点(司会総括) | 14 |
| 防衛医科大学校 第2内科 三浦総一郎 徳島大学 病態栄養学 武田英二 | |
| 消化器における分岐鎖アミノ酸の代謝:分岐鎖アミノ酸アミノ基転移酵素と分岐鎖 α -ケト酸脱水素酵素について | 15 |
| 名古屋大学 第2内科 加藤徹哉 他 | |
| ヒト大腸粘膜におけるAngiotensin IIとRenin-Angiotensin系の局在 | 19 |
| 浜松医科大学 第1内科 平沢弘毅 他 | |
| ウイルソン病蛋白(ATP7B)を介した肝細胞から胆汁中への銅排泄機構 | 22 |
| 久留米大学 第2内科 原田 大 他 | |
| 肝細胞のクロライドチャンネル— 発現と制御、新たなチャンネルのクローニング | 25 |
| 国家公務員共済組合連合会 浜の町病院 外科 島田和生 他 | |
| ラット小腸ex vivoでのグルコース吸収に対するポリアミンの増強効果 | 28 |
| 滋賀医科大学 第2内科 宇田勝弘 他 | |
| ラット酢酸潰瘍治癒課程におけるアミノ酸トランスポーターLAT1の発現とその意義 | 31 |
| 日本大学 第3内科 宮本俊八 他 | |
| 腸管に発現する有機アニオントランスポーターの単離と機能解析 | 32 |
| 東北大学大学院医学系研究科 消化器外科学 海野倫明 他 | |
| 食物抗原の小腸粘膜輸送機序の解析 | 37 |
| 熊本県立大学 環境共生学部 南 久則 他 | |
| 脂肪酸鎖長の相連による小腸上皮細胞間リンパ球IFN- γ 産生への影響 | 41 |
| 慶應義塾大学 消化器内科 原由里子 他 | |

あとがき

今世紀の本誌編集は今Vol.23 No.1 とNo.2 をもって終わることとなった。本学会も思えば今年はいろいろあった。その大きなイベントは本学会(第31回)が消化器関連学会週間(DDW-Japan)に全面参加のもとで開催された初めての年である。全面参加を決めるに当たり多くの議論がなされた。全面参加が決まった後でも果たして十分な演題と参加者が得られるかなど心配は尽きなかった。しかし、結果は今号にみるごとく今までに勝るとも劣らずの優秀論文花盛りであり、本部や会長の心配も杞憂に終わったことはまことに喜ばしい限りである。本部や会長はほっと一安心と言えれば叱られるかも知れないが、その辺が本音のようである。

杞憂の原因の一つは本学会は他の臨床系の医学会にみられない大変ユニークなものであることによる。即ち、会員の構成は臨床系医師以外に、生理学、生化学、栄養学、薬学等々の多方面の研究領域の研究者により構成される学際的な要素の強い学会であるため、臨床医以外の多くの研究者が果たしてDDWに参加していただけるかどうか懸念された。しかしそれも参加費は演題発表者には奨励金の形で学会本部と会長から補助がでる措置で何とか切り抜けた様であり、関係者のその才覚を多とすべきであろう。

最後に年末のボーナスを一つ、それは本学会に学会賞が制定され4年になることは周知のことであるが、これに加えて2001年からの味の素ファルマより味の素の「冠」の付いた学会賞がもう一つ加わるようになった。因みにこの方の賞金は30万円とか、その対象は「医師および薬剤師、栄養士などの医療関係者による日本消化吸収学会での発表演題で、消化吸収に関する研究」となっています。これも若い研究者が対象になるようです。

守田則一